

化石研 ニュース

No.123 2015/05/19

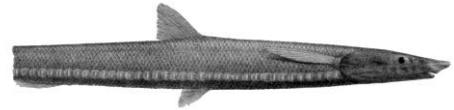
編集・発行：化石研究会事務局

〒370-2345 群馬県富岡市上黒岩1674-1
群馬県立自然史博物館 高桑祐司気付

第33回化石研究会 総会・学術大会 プログラム

前号の化石研ニュースで御案内しました、第33回化石研究会総会・学術大会（通算143回）のプログラムをお知らせいたします。

■ 会 期：2015年6月6日（土）～7日（日）



■ 会 場：東海大学海洋科学博物館（静岡県静岡市清水区三保 2389）

[世話人：柴 正博 会員（東海大学海洋学部博物館）]

■ 参加費：化石研究会会員は無料

※ 非会員の方は博物館入館料が必要です（一般：1500円、学生：750円）

■ 日 程：

6月6日（土） 13時～

○ミニシンポジウム「深海環境と生物」（館講堂にて：一般公開）

くわしくは2ページをご覧ください。

○博物館内・大水槽前にて懇親会（18時～、会費¥4150・要申込[5/22まで]）

※ 運営委員会 [役員等のみ]

（館会議室にて：11時～12時30分）

6月7日（日） 10時～

○総 会

（館講堂にて、会員のみ：10時～10時40分）

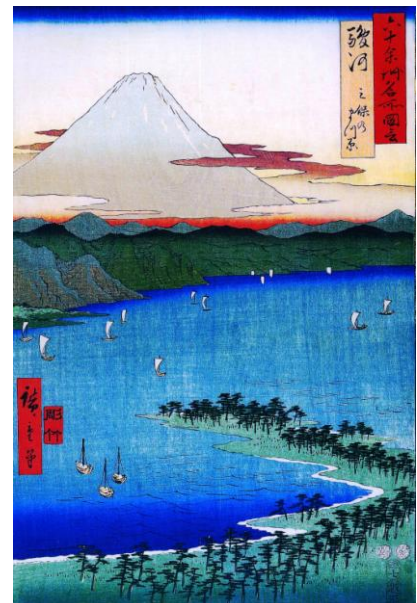
○一般講演（館講堂にて口頭発表 / 一般公開）

午前の部 11時～12時

午後の部 13時～14時

くわしくは3ページをご覧ください。

○自然史博物館・海洋科学博物館見学（14時～）



<<ミニシンポジウム「深海環境と生物」(一般公開)>>

駿河湾に存在する深海環境には、様々な深海生物が生活しており、それらは最近では各方面でたいへん話題となっています。そこで今回は、駿河湾、そして深海生物やそれらの化石に関連した四題によるミニシンポジウムを開催します。



日 時：6月6日(土) 13:00~17:00

13:00~13:10 開会挨拶、趣旨説明

13:10~13:55 講演1「駿河湾はどうやってできたか？」

・・・講師 柴 正博さん(東海大学海洋学部博物館)

最大水深が2500mもある駿河湾。この湾はいつ頃、そしてどの様に形づくられたのであろうか?今回の講演では、駿河湾の形成史について、陸上と海洋の両方から得られている地形的、ならびに化石を含む地質学的データを元に考えてみたいと思います。

13:55~14:40 講演2「メガマウスザメのふしぎ」

・・・講師 田中 彰さん(東海大学海洋学部)

メガマウスザメ *Megachasma pelagios* は1976年にハワイ沖で初めて捕獲され、Taylor *et al.*により1983年に新科、新属、新種として報告された。この個体は全長466cmの雄であり、このような大型脊椎動物が20世紀後半になって発見されたことが大きな話題となった。捕獲後詳細の調査の上、発表されるまで7年もの歳月を要し、新種であるということが確認されたのである。それではなぜ、それまでにメガマウスザメは発見されなかったのであろうか?この不思議について考えてみたい。

15:00~15:45 講演3「師崎層群の硬骨魚類化石相—深海魚を中心に—」

・・・講師 大江文雄さん(奈良文化財研究所埋蔵文化財センター)

愛知県の知多半島南端の丘陵部を形成する中新統師崎層群は層厚1000m以上の泥岩・シルト岩・砂岩の互層から構成されており、下部より日間賀累層、豊浜累層、山海累層、内海累層に区分されている。各累層からはハダカイワシなどの深海性魚類の化石が産出する。特に、南知多町岩屋の造成地で見られる山海累層のタービダイト砂岩層中には、太平洋沿岸域の大陸棚周縁～斜面の魚類群集に対応する魚種がタイムカプセルとして包含されていた。

15:45~16:30 講演4「分子系統と形態観察から探る

深海性クモヒトデ(棘皮動物門)の進化」

・・・講師 岡西政典さん(京都大・瀬戸臨海実験所)

演者はこれまで、深海性の種が多いツルクモヒトデ目(棘皮動物門クモヒトデ綱)を対象として、詳細な形態観察に基づく「記載分類の整理」と分子系統解析による「科レベルの分類体系の解明」を行い、西太平洋海域における「腕の分岐の進化的意義」を明らかにした。本講演では、このような本目の進化について述べる他、深海性クモヒトデを用いた分子生物地理や本邦初となる化石の発見、および新規形態探索の試みも紹介する。



16:30~17:00 総合討論 (18:00~ 懇親会)

<<一般講演[口頭+ポスター] (一般公開) >>

午前の部

- 11:00~11:20 O-1 ヒトの永久歯における外套象牙質の形成面の形態と元素組成に関する
進化学的考察 (高橋正志・後藤真一)
- 11:20~11:40 O-2 天然アパタイト結晶を用いた骨補填材料の標準試料の可能性
(三島弘幸・見明康雄・松本由樹・寺林優・新藤恵美・大久保厚司)
- 11:40~12:00 O-3 伊豆半島は南から来たか?
(柴 正博)

午後の部

- 13:00~13:20 O-4 ペルー産ナガスクジラ類化石に見られるサメ類のバイトマーク
(高桑祐司・高橋千絢)
- 13:20~13:40 O-5 本州中部の漸深海堆積層(下部中新統)産のクモヒトデ類2種
(石田吉明・藤田敏彦・Ben Thuy)
- 13:40~14:00 O-6 北海道三笠市の白亜系三笠層産螺旋状生痕化石
(小幡喜一・絹川喜隆)

※ 演者の皆様へ

- ・一般講演(口頭)は、講演15分、質問5分の計20分です。
- ・一般講演(口頭)には、Windows パワーポイント搭載パソコンを用意します。
Mac ユーザーの方にはご自身のマシンのご持参をお勧めします。

まだ間に合います!

懇親会(6/6)、宿泊[三保研修館](6/6)、
昼食(6/6・7)の申込みについて

いずれも事前申込みが必要です(締切5/22)!!

☆懇親会[海洋科学博物館・大水槽前](6/6)・・・参加費 ¥4150 (一名)

☆昼食(6/6、7)・・・お弁当代 ¥1000 (一食分/お弁当+お茶)

☆宿泊[東海大学三保研修館(最寄り)](6/6)・・・宿泊料金 ¥4500

(一泊/宿泊+朝食)

お申し込みは電子メール、もしくはFAXで下記まで

〒370-2345 群馬県富岡市上黒岩1674-1

群馬県立自然史博物館 高桑祐司気付 化石研究会事務局 宛

メールアドレス: BXJ04105@nifty.ne.jp もしくはFAX: 0274-60-1250 (館)

東海大学海洋科学博物館へのアクセス



自家用車

●東名高速道路 清水インターから、湾岸道路を経由し、三保街道へ。または静岡インターから久能街道（いちご街道）経由。どちらでも所要時間は約 30 分です。博物館付近には有料駐車場があります。

公共交通

●JR 東海道線・清水駅で下車し、駅前のバス停から「東海大学三保水族館」行きのバスに乗車してください。所要時間約 30 分の終点で、下車すると、目の前に小さく見えてきます。
徒歩約 1 分です。



宿泊施設

●3 ページでご紹介した東海大学三保研修館のほかには、会場行き（「東海大学三保水族館」）公共バスが出る JR 清水駅周辺、あるいは清水駅まで鉄道で約 15 分の JR 静岡駅周辺にもビジネスホテルがあります。

ただし、土・日はバスの本数が少ないので、事前に発車時刻をご確認ください。

編集・発行：化石研究会事務局

〒370-2345 群馬県富岡市上黒岩 1674-1 群馬県立自然史博物館 高桑祐司気付

TEL: 0274-60-1200 / FAX: 0274-60-1250 / E-mail: BXJ04105@nifty.ne.jp

ホームページ <http://www.geocities.jp/tepkun/>

郵便振替口座 記号番号 00100-7-633288

名称 化石研究会（カセキケンキュウカイ）

年会費 一般 4000 円（学生 2000 円）

この化石研ニュースは、上記の化石研究会のホームページでも見るができます。

現在、紙でニュースが郵送されている方の中で、紙で送らなくても良い方は是非ご連絡ください。